

愛の「声」運動シリーズその八 青少年の健全育成

★たくましく伸ばそう青少年

★「家庭の日」を意義あるものにしませう

「家庭の日」を意義あるものにしませう。青少年のための山梨県民会議では毎月「第一日曜日」を「家庭の日」と定め、県下各家庭にその徹底を図っているところでありますが、まだ、あまりその意義が理解され、行動化されていない様です。

青少年の健全育成は「家庭の在り方」が大きな影響を与えます。家族の話し合い、団らん、家庭の作業等を通じ、親子、兄弟同志の人的ふれ合いの中で家族みんながあなたがかい心をかよわせ合い、敬愛、協力、いたわり等人間性豊かな心を育くませ、常に楽しい、張り合いある家庭をつくり上げる様「家庭の日」が設定されており

ます。昭和53年版総理府発行の「青少年白書」によりますと、自分の家庭環境調査については「うまくいっている」「ややよい」が大多数で、一般的にはうまくいっているといえます。また、「家庭に対する満足」については「やや満足」が多くなっています。「満足している」という



人を合わせると8割以上となっていることから、家庭生活もよく外国も同じ傾向を示しています。「親との話し合い」については「よく話し合う」という人は30%で外国の同年令と比べても低くなっており、親子の話し合いの欠除がうかがわれます。

青少年の家庭における役割分担については「特になし」という人は男子47%女子25%で米国の1.4%に比し、非常に家庭への参加度が低いことがうかがわれます。

この様にみると、日本の青少年は家庭環境については恵まれ、不満は少ないが家庭での話し合いや家庭への参加、家庭での責任的負担度は低く、協調性、情愛、いたわり等の育成の場が欠け、物質的豊かさのなかで青少年の要求を満たし満足させている傾向にあると

いえます。今後、青少年が社会人として責任を果たし、信頼される人となるためにも「家庭の日」を中心として親子・兄弟の愛を育くみ家族が各々責任を分かち協力する明るい生きがいある家庭の創造をめざす様、親自身が充分配慮することが大切です。

少年野球(学童部)大会

宝チーム優勝

八月一日より三日間市民グラウンドを中心に初参加の羽根子・新井・境チームをはじめ二十チームが参加して行なわれた、第十六回山日杯少年野球(少年学童部)都留市大会は、宝(A)チームが優勝し三日間の熱戦を閉じました。

連日の暑い日さしのなかでチビッコ選手は何日間も練習してきた成果を思う存分発揮し、最後まで試合をすてず白球を追い続けていました。



スタンドには各チームや育成会の応援がつけかけ真夏のチビッコ達のすばらしいドラマに惜しみない拍手を送り、すがすがしい三日間でした。なお、優勝した宝(A)チームは、八月十五日から二十日までの六日間、甲府の緑ヶ丘球場にて行なわれる県大会に市の代表として出場しますので皆さんの応援をおねがいします。

以下市大会の試合結果です。

◎一回戦	宝A	37-0	新井
	高尾町	12-5	栄・幸
	寿町	11-5	十日市場
	上町	11-5	法能
◎二回戦	宝A	35-0	桂町(A)
	上天神町	13-6	境
	月見ヶ丘	23-2	鷹之巣
	早・新	12-5	高尾町
	寿町	21-4	田原
	桂町(B)	20-0	羽根子
	弁天町	12-4	下天神町
	上町	7-4	宝(B)
◎三回戦	宝(A)	8-1	上天神町
	早・新	14-7	月見ヶ丘
	桂町(B)	8-8	寿町
(抽選により)	上町	7-0	弁天町
◎準決勝	宝(A)	10-1	早・新
	桂町(B)	7-0	上町
◎決勝	宝(A)	10-2	桂町(B)

青年連絡協議会による トウモロコシの慰問

都留市青年連絡協議会では、昨年より土地を借りて、会員の手でトウモロコシの栽培をしております。今年二回目を迎え、この七月二十九日早朝より取り入れをしたところ、トウモロコシ約千本の収穫があり、昨年に引き続き、郡内の養護施設・更正施設・養護老人ホーム等へ、取り立てのトウモロコシをもって慰問しました。

地元宝山寮では、寮生全員が前庭に出迎えてくれました。会員は苦労してもまた来年作って、慰問しようと張り切っております。青年連絡協議会は、各地区の青年団・青年会をもって組織されており、会では、消毒・盆踊り・敬老会等幅広く地域活動を行っております。青年団活動について一層のご理解をいただき、一人でも多くの青年に加入してほしいと呼びかけております。

